

# 会 議 録

会 議 の 名 称	平成28年度 新座市子どもの放課後居場所づくり事業 運営委員会（第2回）
開 催 日 時	平成28年11月18日（金） 午前10時から午前11時30分まで
開 催 場 所	本庁舎2階 全員協議会室
出 席 者	岩岬 正浩 山崎 深雪 高橋 靖子 須田 邦彦 石原 志穂 野田 真木子 中島 公子 島倉 佐和子 中野 仁美 前川 美樹 大熊 正 菅野 潤一 鈴木 義弘 増子 義久 <div style="text-align: right;">計14名</div>
事 務 局 職 員	生涯学習スポーツ課 栗山副課長、富樫主査、藤田主任、天倉主事、武嶋
会 議 内 容	1 開会 2 挨拶 3 議事 (1) 新座市子どもの放課後居場所づくり事業運営状況について (2) 子どもの放課後居場所づくり事業アンケート実施及び結果について (3) 新規開設校について (4) その他 4 閉会
会 議 資 料	・次第資料 ・委員名簿
そ の 他 の 必 要 事 項	特になし

審 議 の 内 容 (審議経過、結論等)

1 開会 (栗山副課長)

2 挨拶 (岩岬副委員長)

3 議事 (運営委員会設置要綱第6条により岩岬副委員長が議事進行)

(1) 新座市子どもの放課後居場所づくり事業運営状況について (説明：富樫主査)

〈学年別登録者数 (資料P1～3)〉

- ・ 昨年度までは登録率が5割を超えるココフレンドはなかったが、今年度は8校中7校が5割を超え、全体的に登録率が高くなってきている。
- ・ 途中登録の児童は1学期までは多かったが、夏休み以降落ち着いている。
- ・ 今年度新たに午後も開設した東北ココフレンドでは、夏休み直前の新規登録者数が昨年に比べ大幅に増加した。
- ・ 低学年の登録者数が多く、特に1、2年生が7割以上を占めている。

〈月別参加人数 (資料P4～7)〉

- ・ 保護者会など学校行事のある日の参加人数が多く、登録者が多いココフレンドでは150名を超えることもあった。活動場所の確保に苦慮したココフレンドもあった。
- ・ 発達障害と見られる児童の参加が増えてきている。コーディネーターからの相談もあり、5月のスタッフ研修で発達障害について学習した。埼玉県に確認したところ、県内の放課後子供教室で発達障害について研修を行っている自治体は他にないということである。

〈改正点実施報告1、2 (資料P8)〉

- ・ 今年度から1年生の受入れを一学期の給食開始日とした。受入れ開始当初の一年生の参加人数は多くなく、学校の協力もあり混乱はなかった。入学直後であり、学校に慣れていなため、学習の時間の過ごし方が難しい。
- ・ 土曜授業、運動会、学校公開日の代休日、県民の日に開室した。各日もほとんどのココフレンドで一桁の参加人数であったが、イベントを実施したココフレンドでは70名近い参加があった。

〈東北小学校における夏季休業中の午後の開室 (資料P9)〉

- ・ 東北放課後児童保育室の夏休み入室人数は減少した。ココフレンドでは、夏休み直前の高学年の登録が増加した。
- ・ 子どもが規則正しい生活を送ることができた、という声が多く聞かれた。
- ・ 仕出し弁当の配食等昼食時の対応や、受付、参加カードの整理などの受付事務の煩雑化によりスタッフとコーディネーターの負担が増加した。
- ・ 午後は子どもの見守りをシルバー人材センターに委託した。子どもたちは午前のスタッフに慣れているため、午後は戸惑っている様子も見受けられた。
- ・ 夏休み中は長時間子どもたちとふれ合うことができ、保護者ともコミュニケーションがとれた。また、学校の先生と情報交換をする時間が持てた。

〈改正点実施報告3 (資料P8)〉

- ・ 10月20日(木)からの冬時間では、お迎えがある場合のみ午後5時まで在室可能とした。各ココフレンドとも特に混乱はなくスムーズに活動

できている。

〈ココフレンド一斉メール配信システム（資料P28）〉

- ・ 一斉配信メール導入に際し、市の個人情報保護審議会に諮り、この度承認された。11月16日（水）に学校を通じてココフレンド登録児童の保護者にお知らせを配布した。

（イメージ図に基づき説明）

**副委員長** 参加人数が多かった時に活動場所が足りなくなってしまったことはなかったか。

**事務局** 東北ココフレンドで168名の参加があった時には、体育館で学習をした。夏休み中は1年生の教室を借りた。臨機応変に対応している。

**委員** 石神ココフレンドでは、4月の保護者会の時に初めて参加する1年生が多く、さらにその日に新規登録をする人も多かった。学校に慣れていない1年生の見守りと登録事務とで大変混乱した。1年生を受け入れた後しばらくは新規登録できない期間を設けてほしい。

**委員** 受付人数を増やすなど受け入れ側の体制を変えたらどうか。

**委員** 活動場所が1か所ではないので、スタッフの配置上受付人数を増やすことは難しい。

**事務局** 申込みの期間についてももう一度検討したい。

**副委員長** 代休日の開室については、概ね実施してよかったということか。

**委員** 代休日に保護者が忘れ物を取りに入ったり、配送業者が来たりしたココフレンドがあったようだ。安全面で不安がある。参加人数も少ないので、代休日の開室には疑問がある。

**事務局** 一年間通しての状況を検証する。野寺ココフレンドと新開ココフレンドでは代休日にハロウィンイベントを行い、どちらも70名前後の参加があった。イベントを行うと参加人数が増えるということからニーズはあると思う。啓発も含めて改めて検討していく。

**副委員長** 夏季休業中の午後の開設については、拡大していく予定か。

**事務局** 来年度はもう1校増やす方向で考えている。

**委員** 東野小保護者から、東野ココフレンドでも午後の開室をしてほしい、という声が多く聞かれた。

(2) 子どもの放課後居場所づくり事業アンケート実施及び結果について（説明：天倉主事）

- ・ 9月21日（水）から9月27日（火）の期間に実施した。
- ・ 昨年実施しなかった石神ココフレンド、東北ココフレンド、野寺ココフレンド、新開ココフレンドの4校で実施した。
- ・ 東北ココフレンドは夏休みの午後も開室したので、他の3校とはアンケートの内容が一部異なる。また、スタッフとコーディネーターに対してもアンケート調査を実施した。

【保護者に対するアンケート】（資料P10）

〔設問1〕

低学年ほど登録者が多く、高学年ほど少ない。

〔設問2〕

「月に1回」、「学期に1回」という回答が6割を超えている。

〔設問3・4〕

参加が少ない理由としては、「子どもが行きたがらないから」が一番多く、どんな時に参加するのかという設問には「お子さんが行きたいという時に参加する」という回答が多い。子どもの自主性による参加が一番多く、次に保護者が必要とする時の参加が多い。

〔設問5〕

「友達と遊ぶ機会が増えた」、「異学年の子どもたちと一緒に遊ぶ機会ができた」等、交流の幅が広がったことがうかがえる。

〔設問6〕

長期休業中の開設時間が「適当である」と感じている方、「短い」と感じている方が、二極化しているが、若干「短い」という方が多くなっている。「短い」という方の中には「お弁当持ちでよいので、午後まで開室してほしい」という意見もあった。

〔設問7〕

長期休業中の午後に開室されたら「是非参加したい」「できれば参加したい」が半数を占める。

【東北ココフレンド・保護者に対するアンケート】（資料P14）

〔設問2-1〕

夏休み中の参加は「全部で3回以下」が最も多く、参加回数はあまり多くない。

〔設問2-2〕

半数以上が午前、午後の1日参加したと回答している。午後のみ参加は少ない。

〔設問2-3〕

昼食は、持参が6割を超え、仕出弁当を注文した児童は3割程度である。また、午後の開室で「安心して仕事に行けた」という意見がとても多い。

〔設問2-4〕

午後の開室時間については「適当である」が9割を超えている。

〔設問2-5〕

開室時間については午前8時から開室してほしいという希望が多い。

〔設問2-6〕

夏休み以外の長期休業日の午後も開室された場合「是非参加したい」「できれば参加したい」が4割を超えている。

〔その他の意見〕

全体では次の意見が多い。

- ・異学年の友達ができ、楽しそうな様子である。
- ・イベントを楽しみにしている。
- ・学校内で過ごせるので安心。
- ・スタッフへの感謝の言葉

また東北ココフレンドでは、安心して仕事ができる、来年度も是非継続してほしい、といった意見があった。

【東北ココフレンド・コーディネーター及びスタッフに対するアンケート】

（資料P19）

〔設問1〕

現場から見て、子どもたちが異学年交流できるようになったり、明るく元気に過ごせるようになったと感じていることが分かる。一方、「慣れが生じ注意を聞かなくなった」という意見も比較的多い。

〔設問 2〕

コーディネーターやスタッフ自身が地域の子ども、学校、ココフレンドをはじめとする子どもたちの集まる施設への関心が高まり、地域の中で人の輪が広がっていることが分かる。

〔設問 3〕

ココフレンドが開設されたことにより、地域間交流の機会が増えていることがわかる。

〔設問 4〕

現場では、学年を超えて子どもたちが自由に遊び、体験できる居場所があることがココフレンドの効果であり、利点であると捉えられている。

〔設問 5〕

ココフレンド事業の継続・発展のためには、人件費や活動費の確保、活動場所となる学校の理解と協力が必要であると考えられている。

〔夏休みの活動－1〕

回答者全員が夏休みの活動に参加している。

良い点として、「子どもの安心・安全な居場所が広がった」が一番多く、子どもの夏休みの過ごし方の選択肢が広がったことが利点として捉えられている。

改善すべき点は、「保護者の理解と協力」、「人件費や活動費など各種経費の確保」が挙げられている。

〔夏休みの活動－2〕

次年度以降の午後の開室については以下のとおり意見が分かれた。

- ・子どもにとって充実した夏休みが送れるので、継続した方がよい。
- ・暑い夏の活動は子どもにとって負担になるので、開室しない方がよい。
- ・子どもの居場所として必要だと思うが、スタッフの勤務体制の見直しが必要だと思う。

〔夏休みの活動－3〕

運営方法としては、今年度同様、「午前中はボランティアスタッフ、午後はシルバー人材センターに委託する」のがよい、という意見が多い。

〔夏休みの活動－4〕

昼食の仕出弁当については、それぞれの家庭の事情があるので必要、仕出弁当の配食に時間をとられ子どもの見守りが十分でなくなるので不必要、など意見が分かれている。

**副委員長** 議題(1)の内容を裏付けるアンケート結果になっていると思う。

**副委員長** スタッフの待遇の改善は検討されているか。

**事務局** ボランティアスタッフなので謝礼金については今のところ検討する予定はない。

**委員** 学生ボランティアをお願いしたと思うが、どのような効果があったか。

**事務局** 夏休みに十文字女子大学の学生に協力していただき、主に東北ココフレンドと東野ココフレンドで活動していただいた。年齢が近いこともあり、子どもたちは大変喜んでいたということである。今後も協力していただきたいと思っている。

平成29年度は第4次基本構想総合振興計画後期基本計画に基づき、実施校の拡大を図るものとして、2校開設すること検討している。

①スタッフルームの確保、②活動場所の確保、③放課後児童保育室が大規模化・狭隘化しているか、という3点から未開設校9校の現在の状況を鑑み、大和田小学校、片山小学校の2校を事務局から提案したい。

2校の状況は以下のとおりである。

〔大和田小〕

- ・ 児童数が他の学校に比べて多い。放課後児童保育室も定員を大幅に上回る登録者数があり、大規模化・狭隘化している。
- ・ 新校舎建設により平成29年4月から4教室増加する。放課後児童保育室との調整が必要だが、スタッフルームと活動場所が確保できる可能性がある。
- ・ 児童数が市内で一番多く、開設には困難が予想されるが、平成26年7月に策定された国の放課後子ども総合プランにおいて、放課後子ども教室と放課後児童保育室との連携を強く推奨していること、また、平成31年度までに市内全小学校でココフレンドを開設するという新座市の計画があることから、学校、放課後児童保育室、ココフレンドの三者が協力しなければならないと考えている。

〔片山小〕

- ・ スタッフルームと活動場所の候補となる教室がいくつかある。
- ・ 放課後児童保育室の入室者数が70名を超え、入室率は130%を超えている。
- ・ 学校側が開設について前向きである。
- ・ 中学校区からみたバランスでは、新座中学校区での開設が望ましいが、陣屋小学校、野火止小学校は活動スペースの確保が困難なことから、来年度の開設は難しい。

**副委員長** 平成30年度、31年度で全ての小学校で開設するのか。

**事務局** 財政的なこともあるが、その予定である。

大和田小学校と片山小学校を平成29年度開設の候補校として事務を進めさせていただく。3月実施予定の運営委員会で正式に報告できるように調整する。

- (4) その他（説明：富樫主査（資料P32））  
今後の予定について説明

#### 4 閉会（栗山副課長）